

令和8年度第1回市民参加推進会議 会議要旨

開催日	令和8年5月22日（金）10時00分～12時00分
開催場所	議事堂 3階 全員協議会室
出席者	牧瀬稔会長、鈴木英之副会長、眞方篤史委員、川口慶真委員、坂井美咲委員、森谷聡子委員（6名）
欠席者	大野忠委員（1名）
事務局	中川課長、橋本統括主査、本多主任、塚田主事
次第	1 開 会 2 委員委嘱・任命 3 市長挨拶 4 会長・副会長の選出・就任挨拶 5 諮問 6 議 事 （1）和光市市民参加推進会議とは （2）市民参加を支える庁内取組事例について 7 その他 8 閉 会
傍聴者	1名

開会

1 和光市市民参加推進会議の委員の委嘱及び任命

各委員へ委嘱書及び任命書を交付した。

2 市長あいさつ

3 委員・事務局の紹介

各委員及び事務局職員が自己紹介を行った。

4 会長・副会長の選出、就任あいさつ

く 会長・副会長の選出

市民参加条例施行規則第 22 条に基づき、会長に牧瀬委員、副会長に鈴木委員が選出された。

く 会長・副会長の就任あいさつ

5 諮問

会長へ諮問書を手渡した。

6 議事

(1) 和光市市民参加推進会議とは

牧瀬会長 議事 1 について、質問・ご意見等伺う。

各委員 (特になし)

(2) 市民参加を支える庁内取組事例について

牧瀬会長 「第 1 2 期進め方(案)」のとおり進めて良いか伺う。

各委員 (特になし)

(3) 質疑応答

事務局 先ほど、庁内での取組みを紹介したのは取組みの良し悪しを評価するためではなく、市民参加を推進していく上で、土台としてこういった取組みをしていると例示するためである。

委員の皆さんには、和光市において市民参加の推進のためにはどのような要素が必要か、ご意見をいただきたい。

牧瀬会長 市民参加を進める上で、庁内においてどのような要素が重要であるか。今後、議論するにあたり、課題、着眼点について、ご意見をいた

だきたい。インターナルコミュニケーションの強化、職員意識の醸成についてご意見を伺いたい。

牧瀬会長 現在、職員間のコミュニケーションは以前に比べて希薄化しているか。

事務局 現時点で希薄であるとは思っていない。今後、市民参加を進めるために職員及び庁内に必要な要素が何か議論していきたい。

鈴木副会長 職員アンケートの回答率が 64%、さらに愛着がある旨の回答がそのうちの 77%。つまり、全職員のうちの半分弱しか愛着がある職員がいないことになる。数字として低いのではないか。

また、このアンケートを取る契機となった和光市人材育成方針は、能力・意識の向上に役立つと感じるかという問いに半分为「そう思わない」と回答している点が、心配である。

事務局として、このアンケートをどう評価しているか。

愛着の低さや方針を役立たないと感じている職員が多いことが、市民参加が進まない一因ではないかと考えている。

事務局 アンケートは全体向けに実施したが、休職者等も分母に入っている。

新規採用職員等、勤務歴の浅い職員も回答している点を考慮すべきであると考えている。

なお、この方針自体は、長らく改正されていなかった。それゆえ、認知度が低いのではないかと考えている。

眞方委員 この職員向けアンケートは、定期的の実施しているものであるか。

定期的の実施しているのであれば、結果の統計や評価を実施しているか。

事務局 和光市人材育成方針は総務省の人材育成基本方針を根拠に作成しており、頻繁に改正しているわけではない。職員向けアンケートはこの方針の改正時に実施しているもので、定期的の実施してはいない。

眞方委員 方針が変わらない限りはアンケートを取らないということか。

事務局 記憶している限りではアンケートを取ってこなかった。今後につい

ては所管する課に伝え検討する。

牧瀬会長

委員会としてアンケートを取るように意見することも可能である。委員会として意見するかどうか、今後検討する。

森谷委員

職員アンケートの愛着の有無について、未回答者は愛着がないとも言いきれないと考えている。この数字だけで決めることはできない。

また、人材育成方針については、職員全体のスキルが向上することを目指した方針であるため、例えば、窓口対応等が必要な職員の実務的なスキルが伸びていないという意味で、能力・意識の向上に役立つと感じない職員がいたのではないかと考えている。

牧瀬会長

このアンケートは所属部署や職員の市内居住の有無等を質問しているのか。

事務局

質問していない。設問は、性別、年代等のような個人を特定しない程度のものである。

牧瀬会長

次回以降実施する場合は、回答内容を分析できるような設問を盛り込む方がよい。

川口委員

このようなアンケートは個人情報保護研修のように全職員を対象に実施するべきである。また、新規採用職員等にも回答してもらうことは良いと思うが、回答してもらった上で、別の性質のものとして取り扱うべきである。いずれにせよ回答率の分析は必要であると思う。

「コミュニケーションが良い」という回答があるが、課をまたいだ情報連携等は実施されているのか。昨今、庁内横断的な事業実施時にコミュニケーション不足が事業遂行の妨げになるような場合があるか伺いたい。

事務局

課をまたいだ連携については、仕事上のコミュニケーションは図れている。それ以外のコミュニケーションについては、互助会のイベント等に限られる。

川口委員

人としての関係値がよりできてくると、抱えている業務について聞きやすかったりするのだろうか。

事務局 そのとおりだと考えている。経験則として、あらかじめ話をしていると仕事が進みやすいというのは感じる。

川口委員 しかし、その方法は遠回りであるように感じる。関係値ができてから進めるとなると業務が進むのが遅くなってしまうと思う。職務上のコミュニケーションとそれ以外のコミュニケーションは別にとらえるべきである。

牧瀬会長 アンケートへの回答がなければ不利益があるなど、回答させるための手法はいくらでもあるのではないかと思う。

市の全体の業務遂行能力が上がるのであれば、多少の雑談をすることも良いのではないかと思う。

坂井委員 アンケート実施期間が10日ぐらいしかない点が気になっている。

コミュニケーションについて、異動が頻繁にあると推察する。例えば、他課の担当者と一緒に働いていた方も課内にいるのではないだろうか。その方を通じてコミュニケーションを取ればよいのではないかと思う。

アンケート内の専門性を活かすの項目が31%と低い。この点については公務員は異動が多いことを考えると仕方がないことなのではないかと思う。

このアンケートは、市民参加推進の前提として示されていると理解している。市民参加推進会議にて、新規入庁者向けのアンケートを示してもらったことがあった。このアンケートでは市民参加推進の重要性があまり認識されていなかったと感じている。このアンケートにも市民参加推進の視点を取り入れられると良かったのではないかと思う。

事務局 以前実施した新規採用職員に対してのアンケートは市民参加研修の一部としてのアンケートであるので、今回は組み込む予定はなかった。

坂井委員 今後、市民参加についてのアンケートを改めて実施すると良いのではないかと思う。

牧瀬会長 実施期間が10日間であった部分についてはどうか。

事務局 人材育成方針は、職員課の案件であり、更新を1年以内に実施しなければならない状況であった様である。本アンケートは電子申請で実施しており、10日間は決して短いという印象はなかった。

鈴木副会長 民間企業において、顧客満足度を高めるためにインターナルマーケティングを進めていく事例はある。役所でも同じ手法を取ることができるかについては、疑問に思う部分はある。コミュニケーションが充実されると市民の満足につながるという点について、どのように考えているか。

事務局 民間と市役所において、全く同じ効果が得られるわけではなく、直接的な影響があるとは言えない可能性はある。もっとも、職員の意識醸成は、十台になると考えている。

職員アンケート自体は、数ある取り組みの一つとして紹介したに過ぎない。

鈴木副会長　問題意識として、市内のコミュニケーションの充実を図ることが、市民サービスの充実に必要なということか。

事務局 過去の市民参加推進会議では、市民をどう動かしていくかを中心に議論していた。その中で内部の市民参加推進の意識はどうか、内部から市民参加を推進する方法を構築したいと検討した結果が、今回の会議の前提にある。

川口委員　今の話で行くと庁内のコミュニケーション充実＝市民サービス充実という仮説でいいのか。どこまで高めればよいのかを見える化しなければいけない。これだけ伸びたので、これだけ住民サービスの質が向上したというのを見せなければ、市民は納得しない。市民目線で、ただ雑談している状態にならないように、例えば、令和８年は庁内でのコミュニケーションの促進を図っている、コミュニケーションの促進は、〇〇という理由で、市民サービスの充実につながっているため、といったようにしっかりロジックを詰める必要がある。

これだけのことをやったので、これだけ市民サービスの種類が増えた、サービスの質が良くなった等の伸びたということを出した方が良

い。市民としては成果を求めている。

事務局

グループメンタリング制度は、職員課が用意した公式の相談場所。年度に 1 回以上開催し、私的な事項についても相談することができる。

見える化していく上では、実施回数等のバラつきが課題になると認識している。

川口委員

やるからには、市民に対して、実施報告と効果検証が必要となると考えている。会社の株主に対する説明と同じである。ダッシュボード的に、定期的に途中経過を開示していく方が良い。その方が市民の納得度も高い。

これを開示することがまた、住民への説明義務の履行につながるの
で、職員に当事者意識が芽生えるようになるのではないと思う。

牧瀬会長

職員コミュニケーションの定量化については今後検討するべきである。

例えば、外資系企業は職員の出身や勤務場所がバラバラであるため、庁内コミュニケーション促進を目的として、ギネス記録に挑戦していることもある。また、一部の大手企業では、運動会を復活させたりしている。

坂井委員

ただ単純に「雑談を増やせ」というのでは意味合いが変わってくる。

インターナルコミュニケーション促進の観点から聞くが、課としての会議は頻繁に実施しているのか。

事務局

課によって業務内容等は異なるので、一概には言えないが、必要に応じて実施している。例えば、課によっては週 1 回スケジュールの共有等を実施し、そのうえで事業担当者毎の会議を実施している。

坂井委員

課として共通課題は一致しているのか、打開策が一致しているのか確認したほうがいいのではないと思う。より深みのあるコミュニケーションになると思う。

森谷委員

この会議は職員同士の関係性を改善することで市民参加を実質化

することを目的としているという認識で間違いないか。

事務局

市民参加を「効果的で中身のあるもの」にしたいと考えている。職員には、より主体的に市民参加を実施してほしい。タイミングや手法について深く考えず、条例に規定されている最低条件だけやればよいと考えていることが多いように見受けられる。この状況を改善したい。

森谷委員

職員間のコミュニケーションを促進すれば、市民参加の実質化が達成されるのか。両者の因果関係について、検証する必要があるのではないかと思う。

牧瀬会長

必ずしも達成されるわけではない。達成するための一つの要素である。

事務局としては、目下の課題であるという認識であると思う。

森谷委員

他の委員が指摘しているように、現状の数値がいくつで、最終的にいくつにするか、定量的な KPI の設定が必須であると思う。近隣自治体や他市と比べると和光市はどれぐらいか、比較できると良い。

牧瀬会長

定量化はできると良い。

現時点では、「愛着がある」の 77% を高められるのか、高めるとしたらいくつにするか。回答率も 64% であるが、これをいかに高めるか。

鈴木副会長

この課題は前期からの引き続きであると思うが、形式化の部分（背景）の話からするべきであったと思う。条例上、「一つだけ市民参加やればいいよね」となっていることについて、形式的に満たされているから問題ないが、実質化を図っていった方が良いというところまで前期は話をして終わった。

形式的な部分の問題点を指摘した上で、根本的には職員の意識が低いからではないかという流れにもっていくべきであった。現状は、職員のコミュニケーションを促進すれば、市民参加の推進につながるという関係性のイメージが沸かない。

事務局

確かにそのとおり。第 1 回でいきなり制度論に入るよりは考え方や職員の意識の醸成について現状を把握したほうが良いと思い、土台の

話、実質化の話から入った。

鈴木副会長 切り口はいろいろあると思うが、前期の背景を知らない皆さんは、つながりを論ずるところは疑義があったかと思う。

牧瀬会長 次回は、前期の議事録を配っておくと良いかと思う。

坂井委員 前期は市民参加って何だろうから入った。最初から審議で始まっていた。そこを取っ払ってしまうと社内体制について議論するのが難しい。市民参加に対して社内はどう考えているのかについての説明が必要であった。

眞方委員 議題の意味が分かっていないまま発言していたところはある。和光市として市民参加を盛り上げていこうという場合、目標の自治体や外部団体が提示されていたりすると意義のある議論になったように思う。

牧瀬会長 次回に向けてデータ等を準備するべき。統一地方選の投票率の推移、自治会の加入率の推移、職員満足度アンケートの推移を集められるだけ集めてほしい。

川口委員 会議体の話ですが、紙で出力するのを辞めたいがいかがか。

牧瀬会長 事前に確認して PC 等を持ち込みするか否か決めてもらいたい。

(4) 第 1 回会議の感想

森谷委員 今日いただいた諮問事項の中のご意見を参考に今後の在り方を検討したい。

坂井委員 内容については申し上げたとおり。今年度もよろしく願います。なお、ペーパーレス化には賛成。

川口委員 各メンバー強みがあると思うので、各メンバーの強みを活かしていきたい。手上げをしたからには和光市に貢献するという思いで職務遂行する。ノウハウスキル等、少なからず貢献できると思う。発言を他課に共有し、他課とのハブになってほしい。

眞方委員 4回しかない会議の1回が終わってしまった。答申案をまとめることを考えると実質2回程度しかない。議論を実りのあるものにするためには、論点をしっかりまとめて議論に最初から入れるようにしておくべきである。

鈴木副会長 残す会議はあと2、3回。今回の諮問を受けた内容について答申案が出せるように頑張りたい。

(5) その他

鈴木副会長 会議の回数が増えることはあるか。

事務局 令和9年度は増やすことも可能である。

閉会